

# 伊勢物語『月やあらぬ』定期テスト対策問題 | 現代語訳・文法・内容の頻出設問と解答 解答・解説

---

## 【語句の読み・意味】

問1 むつき。陰暦一月の呼び名。

問2 読み：ほい。意味：かねてからの望み・本来の意向。「本意にはあらで」＝（女にとって）望んだ相手ではなくて。※「ほんい」と読まない点に注意。

問3 読み：こぞ。意味：去年・昨年。和歌や物語でよく使われる読みで、テスト頻出。

問4 イ。「あばらなり」は「(家などが) 荒れはてて、隙間が多い」の意のナリ活用形容動詞。女が去った邸の荒廃ぶりを表す。

問5 寝殿造りで、中心の建物（寝殿）の西側に建てられた付属の建物（対の屋）。渡殿（廊下）で寝殿とつながる。

## 【現代語訳】

問6 「本心からというわけではなくて」。「で」は打消の接続助詞で「～ないで・～なくて」。未然形「あら」に接続する。

問7 「(女の) いる場所は聞くけれど、(普通の) 人が行き通うことのできるような所でもなかったのだから」。「べき」はここでは可能（～できる）の意。

問8 「立って見、座って見、(あれこれ) 見るけれど」。「ゐる（居る）」＝座る。落ち着かずに姿勢を変えながら昔の面影を探す様子。

問9 「やはりつらいと思いながら過ごしていた」。「つつ」＝反復・継続（～しながら・～し続けて）。

## 【文法・敬語】

問10 尊敬語（「おはします」＝「あり」の尊敬語で「いらっしゃる」）。作者から大後の宮への敬意。地の文の敬語は作者からの敬意になる。

問11 隠れ（ラ行下二段動詞「隠る」連用形）＋に（完了の助動詞「ぬ」連用形）＋けり（過去の助動詞「けり」終止形）。完了「ぬ」は連用形接続。「隠れ」たのは西の対に住んでいた女（＝男が通っていた相手）。

問12 已然形「あらざりけれ」＋「ば」＝確定条件（原因・理由）で「～ので」。未然形＋ば（仮定条件）との区別が頻出。

問13 (1) 係助詞「なむ」で、意味は強意（訳には出さなくてよい）。(2) 係助詞「なむ」を受けて係り結びが成立し、文末が連体形「ける」になっている。

問14 「べく」は推量の助動詞「べし」の連用形で、ここは**可能**（～できる）の意（当然と説明する説もある）。  
訳：「去年に似ているはずもない（似ることができそうもない）」。

問15 完了（存続）の助動詞「り」の**連体形**。下に「歌」などの体言が省略されており、連体形で止めることで「（去年を思い出して）詠んだ歌」と名詞的にまとめている（準体法）。直後の和歌を導く形。

問16 帰り（う行四段動詞「帰る」連用形）＋に（完了の助動詞「ぬ」連用形）＋けり（過去の助動詞「けり」終止形）。「～てしまった」と動作の完了を過去から述べる定番の形。

### 【和歌の解釈】

問17 **初句切れ・三句切れ**。「月やあらぬ」（初句）・「春や昔の春ならぬ」（二～三句）がそれぞれ「ぬ」（連体形）で結ばれて切れる。

問18 疑問説：「月は昔の月ではないのか。春は昔の春ではないのか。（まわりはすべて変わってしまったように見える。）私のこの身だけはもとのままの身であって（あの人を思う心も変わらないのに）」。すべてが変わって感じられる、という嘆きの解釈。

問19 反語説：「月は昔の月でないことがあろうか、いや、もとのままの月だ。春は昔の春でないことがあろうか、いや、もとのままの春だ。（それなのに）私のこの身だけはもとの身のままで（あの人だけがいらない）」。月も春も変わらないのに自分の境遇だけが変わってしまった、という解釈。両説とも「変わらぬ自分の思い」と「失われた恋」の対比を詠む点は共通。

問20 (1) 打消の助動詞「ず」の**連体形**。(2) 理由：「あら」「なら」という**未然形に接続**している（完了「ぬ」なら連用形接続）。また、係助詞「や」の結びとして**連体形**が要求される位置である（完了「ぬ」の連体形なら「ぬる」となるはず）。

問21 月や春（まわりの世界）は去年と変わらない（あるいは変わってしまったように見える）のに対し、自分の身ひとつ、つまりあの人を恋しく思う自分の心だけは何ひとつ変わらないのに、肝心の相手はもうここにいらない——という孤独と悲しみ。「にして」は「～であって」（断定「なり」連用形＋接続助詞「して」）。

### 【内容・文学史】

問22 （例）翌年の正月、梅の花盛りに去年を恋しく思って女の住んでいた西の対を訪れ、立っては見、座っては見しても去年の面影はなく、荒れた板の間に月が傾くまで横になって思い出にひたり、歌を詠んだが、悲しみは晴れず、夜がほのぼのと明けるころ、泣きながら帰るしかなかったから。

問23 ジャンル：**歌物語**（和歌を中心に短い章段を連ねた物語。『大和物語』『平中物語』が同ジャンル）。モデルと目される歌人：**在原業平**（六歌仙の一人。この段の女は後の二条の後藤原高子とされる）。